

最新終了点の 使い方

紹介する終了点のTypeは、JFAによる実際のリポルト作業において、施工例の多い順となっています。

なお、紹介する使用方法はあくまで基本的な例であり、岩の状況やその他の残置物などにより微妙に状態が違う場合がありますが、基本的な部分はほとんどどれも一緒ですので、落ち着いてよく考えて対処してください。

また、ナットの緩みや欠損なども十分にありえます。最終的に使用の責任を負うのはあなた自身なわけですから、新しい終了点だからといって安心しきらず、必ずチェックしてから利用してください。

文=杉野保

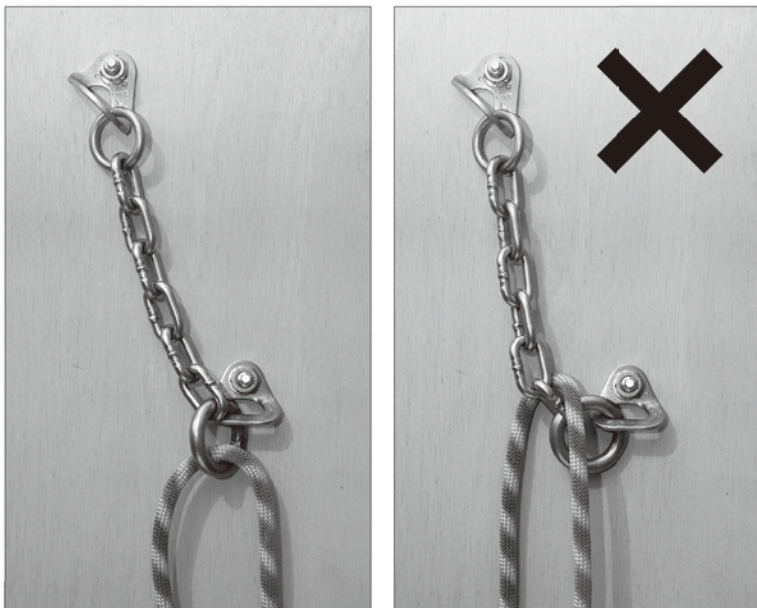
type-1

FIXE社製ラッペルステーション(写真左)

構成:スペインFIXE社製ラッペルステーション(別名「ピレイステーション」または「ピレイラッペル」)ステンレスカラビナがセットになっているタイプ(写真中)や、チェーン長(通常は7コマ)の異なるタイプもある(写真右)。また、リングやチェーンにカラビナが残置されている場合も多い。



ローワーダウン／ラッペル時のロープセット



ロープをリングに通す(ローワーダウンの場合は結び換え)。注意:この状態でのトップロープは、アンカーを独占してしまううえ、リングが摩耗するので不可(残置カラビナでのトップロープも同様)。

注意!誤ったロープセット。ロープがリングに通っていない。このようにセットすると、上下どちらかのハンガー(アンカー)が外れたらOUTだ。

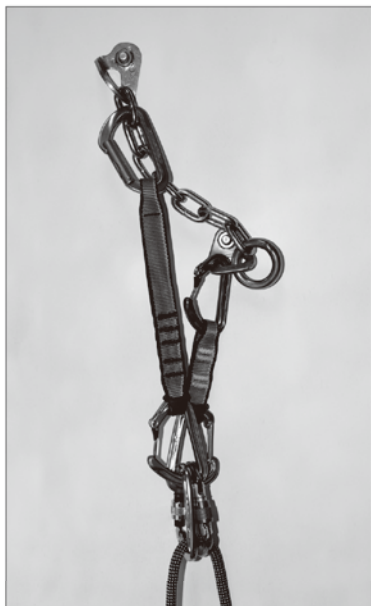
トップロープのセット



①スリングとカラビナを使って荷重分散した例。下のハンガーにカラビナが通らなければリングにかけてもかまわない。



②クイックドロとカラビナを使ったシンプルな例。この場合なるべくゲートの高さが揃うように調整する。



③にロックン・カラビナを併用し岩と擦れにくくした例。



④アンカーを独占しないように、リングはロープを通せる状態にしておきたい。これなら他のクライマーがリングを使える。

type-2

チェーンタイプ (写真左)

構成:アンカー(ケミカル施工またはグージョン、径は10mmまたは12mm)+ハンガー+マイロン+チェーンが独立して2セット
人気ルートや、複数ルートの共用終了点などに設置される。
また岩場環境や岩質との関係上、より強固な支点が必要とされる場合にも用いられる。
ハンガーがなくアンカーとチェーンが直つけされているタイプ(写真中)や、カラビナの残置を前提としているタイプ(写真右)などもある。
アンカーが段違いになっているのは、アンカー間の距離を設けるとともに支点連結時の角度を鋭角にしやすいするため。



ローダウン/ ラッペル時のロープセット



ロープをチェーンの最下段のコマに通す(ローダウンの場合は結び換え)(写真上)。この際のセルフビレイは両方からとること。残置カラビナがある場合は、もちろんそれにかけるだけ。

注意:この状態でのトップロープはアンカーを独占してしまううえ、チェーンが摩擦するので不可(残置カラビナでのトップロープも同様)。

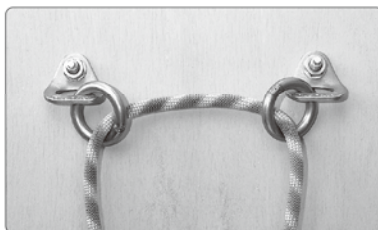
FIXE社製リング付ハンガー

構成:FIXE社製リング付ハンガーを2つ使用。
(「ラッペルハンガー」、「リングアンカー」などと呼ばれることもある)。

type-3



ローダウン/ ラッペル時のロープセット



ロープを両方のリングに通す(ローダウンの場合は結び換え)。この際のセルフビレイは両方からとること。ラッペルでの使用を前提としているが、ローダウンも可。しかしローダウンは場合によりロープのキンクや傷みが発生するので注意。

注意:この状態でのトップロープはアンカーを独占してしまううえ、ロープの傷みも激しいので不可。

トップロープのセット



①スリングとカラビナを使って荷重分散した例（写真上）。ハンガーにかけるのが基本だが、マイロンやチェーンの各コマにかけてもかまわない。ローダウン用のチェーン最下段のコマ（または残置カラビナ）は空けておかなければならないが、この状態で他の人がローダウンする場合、ロープとスリングが擦れないように注意したい。



②クイックドロ（ロックンカラビナ付き）を使ったシンプルな例（写真右）。チェーンのどの位置にカラビナをかけるかはその終了点によってチェーンのコマ数が違うので、クイックドロの長さなど考えながら2本ができるだけ均等荷重になるように位置を決める。ゲートが岩に当たって開かないようカラビナをかける向きにも注意（写真左）。



トップロープのセット



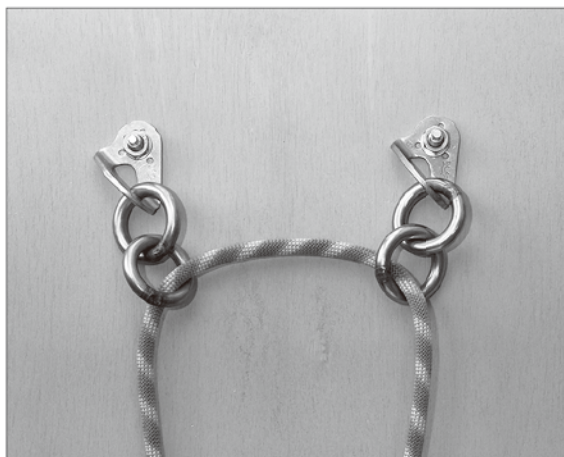
①スリングとカラビナを使って荷重分散した例。ハンガーにカラビナが通らなければリングにかけてもかまわない。



②クイックドロとロックンカラビナを使ったシンプルな例。この場合なるべくゲートの高さが揃うように調整する。



③②にロックンカラビナを併用し岩と擦れにくくした例。



type-4

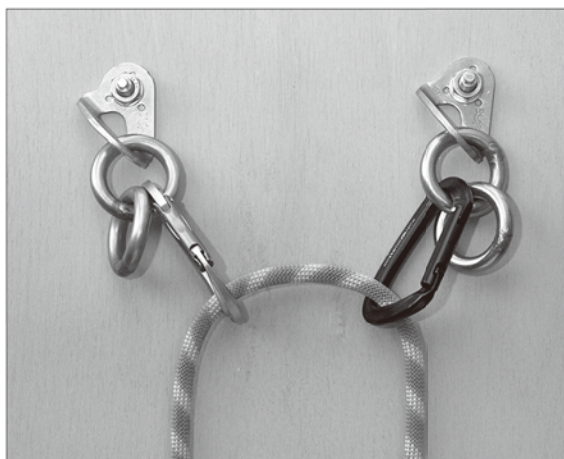
FIXE社製ダブルリングハンガー (写真左)

構成:FIXE社製ダブルリングハンガーを2つ使用。
 衝撃荷重のかかる可能性のある終了点(マルチピッチのビレイ点や、
 ルートの途中にあるアンカーなど)に設置するために作られた。

上側のリングに残置カラビナをつけると、
 非常に使いやすい終了点となるため、最近は良く利用される。
 リング付きグルーインボルトにマイロンをつけた例も同様(写真右)。

ローワーダウン/ ラッペル時のロープセット

ロープを両方の下側リングに通す(ローワーダウンの場合
 は結び換え)(写真上)。この際のセルフビレイは両
 方からとること。ラッペルでの使用を前提としているが、
 ローワーダウンも可。しかしローワーダウンは場合によりロ
 ープのキンクや傷みが発生するので注意。
 カラビナを残置する場合は上側のリングにかけ、カラビ
 ナが岩と垂直になるようにする(写真下)。
 注意:この状態でのトップロープはアンカーを独占して
 しまううえ、ロープの傷みも激しいので不可。



type-5

FIXE社製ほか V字アンカー (写真右)

構成:FIXE社製V字アンカー
シンプルな一体型アンカーだがボルト間の距離が近い
ため、固めの岩質で節理の少ない部分にしか設置
できない。
施工例は少ないが使い方はわかりやすい。



トップロープのセット



スリングとカラビナを使って荷重分散した例。

ローダウン/ ラッペル時のロープセット



ロープを下側リングに通す(ローダウンの場合は結び換え)。カラビナを残置する場合は上側のリングにかけ、カラビナが岩と垂直になるようにする
注意:この状態でのトップロープはアンカーを独占してしまうので不可。
編注:トップロープのセットは他と同様なので省略